

(1) 単元名： ふりこのきまり

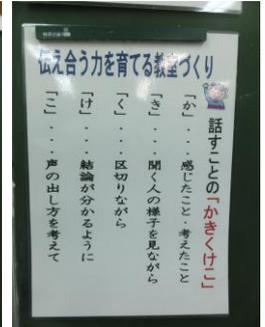
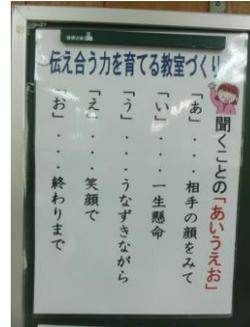
(2) 本時の目標： ふりがが1往復する時間の決まりを見つける。

☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

11:35 授業開始、下写真、3名の表情が柔らかい。

児童2名、教師1名。どちらがつかいだろう？

同じである。大切なことはこの状況を3名が素直に受け入れて学習に向かうことである。授業者は大人であり、先生であり、そしてかけがえのない3人目の仲間であることを受け入れる。右写真、理科室の黒板上の表示である。佐手小の「学びの作法」である。ぜひ「学び合い支え合う」



授業づくりの参考にさせていただきたい。表示一つも他者からの学びである。

11:35 めあての確認：振り子が1往復する決まりを見つけよう。授業者が下ろす→予想する。



児童は3年の頃から2人で何度も、いくつもの壁を乗り越えてきた。授業者は今年度赴任の教師であるが2人の「あうん」の呼吸を実によく感じている。教科、単元、課題、テーマ等によって二人の立ち位置が決まってくる。授業者は必要以上に二人の間に入り込まない配慮も必要となる。(難しい!) 学習課題が下ろされると、勝手に前時までのノートやテキストにもどって、予想を書き始める。しばらくして互いの【予想】の根拠を語り合う。二人の息遣いを見守る授業者。柔らかい言葉で二人の「意」をつなぐ。

授業者：実験の目的、同じにすること等、実験の条件を確かめる。→「じゃあ準備しようか。」

11:45 実験③：振れはばの違い(10cmと20cm)による振り子の振れ方を調べる。(きまりをみつける)

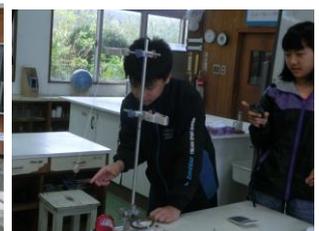
実験の条件を確認→実験→記録→結果のまとめ。

同じ長さを3回確かめるために教師が関わる。

実にほのぼのと対話が交わされ、ふり幅と時間の関係が解明されていく。…「同じだ。変わらない。」

12:00 本時のまとめ→単元をまとめる

「振り子の長さの違い」「振り子の重さの違い」「振り子の振れはばの違い」→ノートまとめ→共有
3つの言葉のキーワードを示す。「長さ」「重さ」「ふれはば」→鉛筆が加速する。



12:05 ジャンプ課題へ・・・かなりレベルが高い問題である。



「難し!」の一言。簡単ではない。二人は、3分ほど各々で夢中になってやってみる。

4分過ぎ二人の鉛筆が止まる。目が合う自然に訊き合うが遂行される。

綾香：どうだった。

晃：計算の仕方が分からない。

綾香：晃のプリントを見ながら

「ちょっと考えたんだけど・・・」

自分の考え方を提供した。簡単でないことが二人の中で確認された。やがて必死になって訊き合う。まずは題意の把握、解への道筋を二人で確認する。二人の呼吸(言葉と目線)がまさに「あうん」である。互いに気遣いながら二人で進もうとする。『二人しかいないことの生き方を彼らは知っている。』

何度も書いては消して(8回)をくり返す晃さん、やがて授業者は、さらにきき合うことを促す。二人の解が全く違う。二人の「ちがう考え方」を共有させた。…互いに気遣いながらしっかり聴いている。



「聴く必要があるのである。」やがて、綾香さんの説明になるほどとうなずく晃さんだった。…しかしまだまだである。

二人が夢中になって語り合う姿を終始笑顔で見守る授業者、二人の姿に安心したのであろう。授業者の安心は、確実に子ども達の安心につながる。間違っても否定はされないことを感じている。・・・左の写真、なぜか校長先生と参観の先生が夢中になって解いていた。できたかな?

(1) 教材名： 夕 鶴 (教育出版)

(2) 単元の目標：心の通い合いを読む《読む》

○ 場面の様子をとらえて、登場人物の心のうつり変わりを読みましょう。

佐手小学校4年生、3名の児童である。日頃は3・4年生の複式の4人学級だが、今日は3年生の1名が近隣校へ集合学習でお出かけのため3人での授業である。…事前の確認もなく、全くアポなしの訪問であったが、突然の訪問者を受け入れてくれた。心より感謝します。

実は、この3名は、2年生の途中(3学期1月)と、3年時の4月からの転入生である。担任のY先生も今年度の4月からの赴任である。

それぞれが、全く違う特性をもっていて、実にたのもしい学年でもある。授業途中からではあったが、やはり私の心は癒された。



☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【学習環境を整える】 教師の教室経営に圧巻である。



素晴らしいの一言！児童4名ですよ。しかも、ただ派手に何でも掲示するのではなく、適時に学習のふり返りができるように、既習の重要語句や難しい単位換算表等がきれいに整理されている。

教師の教育への熱意や職責への誠意がみえる。学校で施される教育に子どもの人数による差はあってはならない。「40人の中の一人」も「4人の中の一人」も同じ「一人である」多様な学級の子も達の中の「一つの個性」が大切にされ、さらにその多様な個性から、教師や仲間たちが新たな感性や知性を学ぶのである。学習規律の確立、学習環境の整備は学びの作法の土台を築くものである。



【たどたどしい読み】 そもそも文学教材はスラスラ読む必要無い。自分のペースで自分のイメージで読むことを大切にしたい。

右写真、授業者がテキストや子どもの声を大切にしていることが分かる。大切にされるから語るのである。授業者の言葉が常に柔らかく、表情も、



子ども達を包み込む優しい温かな眼差しである。私が教えたいことより先に、この子達を「分かってあげる」が優先されなければならないことを知っているからできる。

【分かってあげる】 たどたどしく、何を言いたいのかよくつかめないが、授業者に向かって必死になって語っている。うなずきながらしっかり聴いてあげる授業者。この子を受け入れてくれる授業者だからこそ彼らに語らせることができるのである。授業の終末に次時の段落の読みを入れる。男の子が積極的に手を挙げて眼を輝かせ身を乗り出して「読ませてくれ！」と言わんばかりである。…私が言葉に詰まる。この子たちの成長が佐手小のバロメーターである。



【支え合う】

授業途中、教師が大型教科書を張りだそうとした時、二人の男の子が頼まれるわけでも無く、当たり前に出ていって手伝っている。素晴らしい！

支え合うはみんなが関わる自然の営みである。少ない人数で自分の役割が心得られている。



K先生、Y先生ありがとうございました。素敵な子ども達です。ゆっくり確実に成長しています。K先生、もっと力を抜いても大丈夫ですよ、必要以上に関わりすぎると二人が余計に気を使ってしまうですよ。ゆっくり、教師も子ども達と楽しみながら学んでいく姿勢を大切にしましょう。Y先生、楽しくやっていますか？楽しいことも大変なことも、常に教師と子どもが一緒であることがへき地の学校です。先生が辛いときは子ども達も辛い顔します。教師が楽しいときは子ども達もうれしい顔をします。教室や学校はほんとに分かりやすい「鏡の法則」です。『一人残らずすべての子ども達の学びの保障を目指して』…すごい理念ですが「私なりに進む行く」ことを大切にしましょう。